



2002年 5月～2003年 3月

- ◆ 第1回 : 5/10 みんなでつくる、みんなのための、新しい石樽小学校
- ◆ 第2回 : 5/24 建設委員の皆さんの大きな期待と多様な提案に感銘
- ◆ 第3回 : 6/4 事例視察！いまどきの小学校に驚きと期待！
- ◆ 第4回 : 6/14 夢を形にするためのキーワードがまとまりました
- ◆ 第5回 : 7/5 グループワークで、配置計画に挑戦！
- ◆ 第6回 : 7/26 みんなの意見による配置計画、2つの案にてまとまる
- ◆ 第7回 : 8/9 具体化した2つの案、模型も加わりより明らかに
- ◆ 第8回 : 8/29 次回いよいよ一つの案にま・と・ま・る？！
- ◆ 第9回 : 9/12 地域にとって必要な施設をあらためて考える
- ◆ 第10回 : 10/4 屋根デザインが示され、ついに建物全体の姿が現れる
- ◆ 第11回 : 10/17 屋根デザインには新しさを！メンテナンスにも十分な配慮を！
- ◇公開第1回 : 10/26 『非常によく議論された計画だと感じられ、内容的にも非常に楽しみです。』
- ◆ 第12回 : 11/8 公開ワークショップから大きな成果
- ◆ 第13回 : 11/21 すべての検討項目に対する意見交換を終え、次回いよいよまとめ
- ◆ 第14回 : 12/13 今後のワークショップは、管理・運営に関する話し合いが焦点
- ◆ 第15回 : 1/24 新校舎設計、いよいよ大詰め！
- ◆ 第16回 : 2/17 管理・運営についての話し合い始まる 最初から活発な意見交換！
- ◇公開第2回 : 2/23 学校への地域参加が子ども達を守り、育む！
- ◆ 第17回 : 3/7 今年度のワークショップ 残すところあと1回！
- ◆ 第18回 : 3/24 建設委員の皆様、ひとまず(?)ご苦労様でした

第1回ワークショップの概要

2002年 5月 10日 (金) 19:30~21:00

出席者数：25名 場所：石榑小学校

19:35 委員長・教育長あいさつ

19:40 自己紹介

19:50 教育課長からこれまでの経緯説明

1~2月：前年度建設委員会の努力と地域
住民の皆様の理解により新石榑
小学校用地を取得

2月：建設委員会と町の考え方に合う
設計事務所を選定

現在：「まだ設計は白紙の状態。これか
ら皆の意見で形にしましょう。」

19:55 設計事務所によるプレゼンテーション

- ・会社紹介
- ・小学校に対する考え方
- ・ワークショップとは、...
- ・ワークショップの進め方
- ・スケジュール
(別紙資料参照)

20:15 意見交換

- ・教育の原点から見つめ直して、学校を
形にしていきたい。
- ・子どもの立場になって考えたい。
- ・石榑は現在の小学校がそうだった様に、
地域全体で学校を作ってきた経緯がある。
- ・石榑小の教職員の中でも話し合っている。
- ・地域の人・先生・設計者の同席による
ワークショップに意味がある。
- ・尊い土地を提供していただいたので、
土地形状(レベル差等)を活かした設計
としたい。 など

20:40 事例見学の日程調整

- ・5/27の週または6/3の週で調整

20:50 次回の予定



「みんなでつくる、みんなのための、 新しい石榑小学校」

を合い言葉に、5月10日、夢への第1歩として、ついにワークショップが始まりました。第1回は、メンバーの自己紹介から始まり、「ワークショップって何だろう?」「これからどんな風に進んでいくの?」といった、基本的な内容をみんなで確認しました。



設計事務所によるコンピューターを使ったプレゼンテーション

学校は、先生や子どもたちだけのものではありません。生涯学習や軽運動、子どもたちとの交流、防災拠点など、地域のみんなが日常的に利用する施設です。ですから校舎設計においても、行政と設計者だけでなく、地域のみんまで進めていくべきだと考えます。建設委員会のメンバーを中心に出来るだけ多くの地域の皆様から意見を頂き、石榑にふさわしい小学校を創りたいと思います。

次回からも毎回この『ワークショップだより』にて概要をまとめ、紹介していきます。

ワークショップのメンバー構成

委員長 岡 昭行 (育友会歴代会長)

副委員長 梅山英明 (教育委員)

伊藤文男 (町議会議員)

山岡一男 (町議会議員)

伊藤 隆 (自治会長)

岡 主幸 (自治会長)

林 邦明 (学窓会)

森 清光 (学窓会)

川内信秀 (育友会歴代会長)

石岡なが子 (育友会歴代会長)

西村幸弘 (PTA会長)

瀬木好博 (PTA副会長)

弓矢真奈美 (PTA母親代表)

諸岡みゆき (PTA副母親代表)

水谷英雄 (PTA書記)

瀬木嘉奈子 (PTA会計)

野口 寛 (石榑小学校 校長)

神谷 宏 (石榑小学校 教頭)

花井智也 (石榑小学校 教師)

川島 修 (教育委員会教育課長)

小林良典 (教育委員会教育課主幹)

植野 収 (石本建築事務所 名古屋支所長)

奥井康史 (石本建築事務所)

岡野俊二 (石本建築事務所)

計 24名

次回ワークショップテーマ

1. 新しい石榑小への抱負を語ろう
2. 他校の取り組みを知ろう
他校で行われている事例・資料を紹介

第2回ワークショップの概要

2002年5月24日(金) 19:30~21:20

出席者数: 18名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

「前はまだ皆さん表情が硬かったです。もっと気楽に話しましょう。」

19:40 本日の内容説明(以下スライドにより説明)

前回のおさらい

「第1回わーくしょっぷだより」参照

※「わーくしょっぷだより」について
毎回の討議内容をまとめていきます。
皆さんからの貴重な意見を記録として
残すと同時に、その時に出席できなかった
委員の皆さんにも要点を伝えます。

19:45 新しい石樽小の抱負を語ろう

- ・石樽の自然・産業・文化を反映した学校としたい。
- ・生涯学習の場となる学校としたい。
パソコンの設置(情報教育)、図書館、
体育施設の充実など。
- ・風対策及び風の有効利用(風力発電など)
- ・石樽のすばらしい景色が眺められる場所がほしい。特に、竜ヶ岳は絶対!
- ・通うことが楽しくなる学校(楽行)
- ・バリアフリーな学校
現在は、車椅子使用者をみんなで持ち上げて3階まで運んでいる。(きらら学園との交流がある)
- ・明るい校舎としたい。
- ・安全性に配慮し、犯罪が起きにくい計画
- ・防災拠点となる場所としたい。
- ・自然を体験できる場所がほしい。(楽習)
- ・地域の人が集まる時に、どこだと言わずとも、誰もが石樽小だと思えるような場所
- ・各学習内容に相応しい環境の整備
- ・スペースにゆとりがほしい。

右上へつづく



建設委員の皆さんの 大きな期待と多様な提案に感銘

第2回ワークショップでは、委員の皆さん一人一人に描いてきていただいた新しい石樽小に対する夢を話していただきました。これにより、今まで考えていた個人個人の夢を全体で共有することができました。

皆さん本当にいろいろと考えられていて、多岐にわたる意見や提案をたくさん聞くことができました。新校舎に対する意見や提案はもちろん、現校舎建設時の苦労話、現校舎がなくなるさみしさ、また工事に関するかなり専門的な注意事項など、このワークショップの存在の意義深さを痛感させられました。さらに、ユニークな提案では、「真ん中に柱のある教室」というのもありました。子供が先生から隠れることができる場所をつくるというのです。確かに多感な年頃の子ども達にはそんな気分のときもあることでしょう。

今回のわーくしょっぷだよりでは、それらのすべてではありませんが、主な意見を紹介いたします。

次回ワークショップテーマ

1. 事例視察

- ・北方町立北方南小学校(岐阜県)
- ・瀬戸市立品野台小学校(愛知県)

※行ききのバスの中で各学校の特徴を説明いたします。

次々回ワークショップテーマ

1. アンケート01の分析
2. 事例視察の報告・分析
3. その他の学校で行われている事例紹介

つづき

- ・エコスクール
自然採光、自然換気、太陽光発電、風力発電、機械に頼らない空調など。
- ・今より大きなロッカーがほしい(子供の意見)
- ・低学年にとっても移動しやすい環境
1年生には2階への移動も時間がかかる。
- ・掃除がしやすいきれいなトイレとしたい。
洋式トイレは掃除がたいへん。
でも、きれいに使うようになる。
汚い、臭いという概念を拭い去りたい。
- ・大人数で食事できる場所がほしい。
- ・クラス、学年をとわず、交流できる場がほしい。
- ・スペースを有効に利用する。
特別教室を特定の特別な部屋としない。
オープンな部屋とし、他の部屋との連携をはかりやすくする。
- ・デザインよりも中身が大事。
- ・10年、20年後に振り返ったとき、「いいもの造ったなあ」と思えるものとして。
- ・「興育」「郷育」「鏡育」「今日育」もある。
- ・長持ちする建物としたい。
丈夫でメンテナンスしやすい。
- ・25人学級が実現できる学校
- ・木造風校舎
- ・純石樽産の校舎(石樽産の石材・木材利用)
- ・コンサートが開ける音楽室がほしい。
- ・子供の本質的な心を育む校舎としたい。
手を差し出せば水が出るのではなく、蛇口をひねって水は出るもの。
便利が重要ではない。
- ・汚さないよう気を遣い過ぎるようなきれいな校舎にしたくない。
- ・地域の人も気軽に入れる開かれた学校
平日・休日、日中・夜間を問わず、いつもにぎわっている。おばあちゃんの知恵袋、お茶作り、もち米作り、こままわしなど地域の人との交流の場

21:15 次回事例視察の説明および出席確認

第3回ワークショップの概要

2002年 6月 4日 (火) 8:30~

出席者数：23名 事例視察

8:30 大安町文化会館集合

8:50 バス出発

9:00 あいさつ 委員長

石本建築事務所：奥井

~ Coffee time ~

9:30 地域と学校との連携の分類について説明
北方南小学校の特徴説明 (配布資料参照)

10:15 北方南小学校着

10:20 あいさつ・説明 (校長、教頭、教育委員会)

- ・子どものための学校であり地域のための学校
- ・地域開放：体育館、校庭、プール (町が管理)
- ・多目的室、コンピュータ室 (学校が管理。夜間は教頭が残る)。図書室は未開放だが要望有。昼間もPTAやサ-カ活動に特別教室を開放。中休みに地域の人による読み聞かせも実施。
- ・太陽光発電装置：最大30kW。電気代の2/5をまかなう。夜間開放等により電気代高い。
- ・内装に木をふんだんに利用。管理・清掃難。
- ・池田小の事件以来、ゲートを設けた。

10:30 校内視察 (2グループに分かれて校内を視察)

- ・昇降口：来客用と一体となった2層吹抜けの大空間。トップライト (天窗) とハイサイドライト (高窓) からの自然光と正面の中庭が明るく気持ちいい空間を演出。
- ・多目的室：地域開放を考慮し、外部から直接入れる入口を設置。
- ・体育館：地域開放を考慮し、小学生用より大。

11:15 質疑・回答

- ・風が強く掃除はたいへんだが、原則として児童が対応。親子掃除も行っている。
- ・現在、夜間開放に関して学校側で対応しており、今後もそうであろうが、民間の警備会社と連携をとった上での開放もあり得るかも。
- ・カリキュラムの工夫で、昼間の開放教室を捻出。児童数が増えると難しくなる。
- ・校舎建設に児童の意見は入っていない。
- ・エレベータは病気、車椅子使用者が利用

11:30 委員長のお礼のあいさつにより閉会



事例視察!

いまどきの小学校に驚きと期待!

平日の昼間であるにもかかわらずたくさんの参加者により、たいへん充実した小学校視察となりました。

朝8時50分に大安町を出発し、午前には岐阜県北方町、午後には愛知県瀬戸市にある小学校の計2校を視察、途中バス内での昼食と、かなりハードなスケジュールにもかかわらず、一生懸命メモを取り、写真を撮り、質問したりと、新しい石樽小のために疲れを惜みず努力する姿がとても印象的でした。また、石樽小建設委員の訪問を快く受け入れていただき、丁寧に対応していただいた両校に心より感謝したいと思います。

両校ともただ新しいだけでなく、しっかりとした考えに基づいて設計されており、それぞれに異なる特徴を持つ小学校でありました。委員の皆様の中には、自分の通ったあるいは自分の子どもたちが通った小学校との違いに驚かれた方も少なくはなかったでしょう。そして同時に期待も膨らんだのではないかと思います。

今後はこの視察により得たものを、石樽小の設計に活かせるようワークショップにて存分に討議いたしましょう。

次回ワークショップテーマ

1. アンケート01の分析
2. 事例視察の報告・分析
3. その他の学校で行われている事例紹介



キャリ-：品野台小



中庭：北方南小



コンピュータ室：北方南小

11:40 北方南小学校出発

- 北方南小についての感想・意見 (バス内)
- ・教室が狭く感じた。(横長、机サイズ 規格の変更)
- ・開放時の管理がたいへん。
- ・地域の人が入らると立寄れない。立寄りたくなる気持ちを持たせることも大切
- ・廊下はもっと広いほうがいい

~ Lunch time ~

13:15 品野台小学校の特徴説明 (配布資料参照)

13:30 品野台小学校着

13:40 あいさつ・説明 (校長)

- ・準備・設計に5年間を費やした。
- ・自然採光、太陽光発電30kW (全体の1/4をまかなう、電気代は相当かかる)、雨水利用は効果的。
- ・総工事費18億円
- ・オープンスクール：隣のクラスの声はあまり聞こえない。見られることで、先生のレベルが上がった。実際に利用して、壁はないほうがいい。
- ・地域開放：<昼間>調理室、窯業室 (自由に出入りはできない。申請要) <夜間>特別教室 (PTA役員が管理。学校関係者は残らない。)
- ・防災拠点として備蓄倉庫を設置。

13:55 校内視察

- ・体育館：7-ツがない。全校集会、入学式等は、多目的広場で行う。木製梁。
- ・窯業室：地域の人たちが利用。
- ・理科室：グループ用・個人用の両方に使える机。
- ・メディアルーム：図書室兼コンピュータ室、中庭あり。
- ・普通教室：廊下がなくワークスペースに面し多目的広場に連続する仕切りのない一体空間。
- ・職員室：多目的広場に面したガラス張りの部屋。
- ・便所：男女それぞれに車椅子便所あり。
- ・昇降式黒板、児童作成による陶壁

14:35 質疑・回答

- ・高窓の清掃はしていない。カーペットは掃除機利用。
- ・ワークスペースは木・金は全員で利用。教室はカーペット敷。
- ・チャイムは1日の最初と最後のみ。

14:50 校舎外回り視察

- ・ピオトープ、田んぼ

15:10 閉会

視察者がうろうろする中でも集中して勉強する児童たち



普通教室：品野台小

第4回ワークショップの概要

2002年 6月 14日 (金) 19:30~21:20
出席者数：21名 場所：石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

「建設委員以外の人たちともコミュニケーションをはかり、小学校に寄せる様々な意見や思いをワークショップの場に是非持ってきてください。」

19:40 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)

19:45 前回のおさらい

視察した2校を振り返る。

19:55 その他の事例紹介

打瀬打瀬小学校

- ・柵がなく地域の人たちが自由に敷地に入れ、通り抜けも可能。
- ・様々な外部空間(庭)があり、授業にも利用でき、地域の人たちの憩いの場にもなる。

三春町中里小学校

- ・同じ敷地内に公民館と幼稚園を併設。
- ・日常的な交流が可能。

志木市立志木小学校

- ・公民館、図書館との複合施設。
- ・特別教室や図書室、体育館などは、完全に独立した地域施設であり、学校独自の施設は普通教室程度。

四日市市立中央小学校

- ・各クラスに普通教室と同サイズのワークスペースとワークテラスがある。
- ・ワークテラスは短い休み時間でも太陽の光を浴びられるうれしい外部空間。
- ・教室とワークスペースは可動間仕切りにより開閉可能。
- ・吹抜けのある多目的ホール。



夢を形にするための キーワードがまとまりました

第1回のワークショップが始まって以来、地域の方々の代表である建設委員会を中心に、「みんなで作る、みんなのための、新しい石樽小」に対する思いや意見を語り合い、他の学校での取り組みを勉強したり、実際に訪れたりしながら更にイメージを膨らませてきました。そこで、これまでの成果として、そして今後具体的に「かたち(建築)」にするために必要な検討すべき要素をキーワードとしてまとめました。

今後の検討項目となるキーワード

1. 学習環境の充実

子どもたちが生き生きと学べる学校

- ・普通教室
- ・環境学習(エコ)
- ・変化に対応
- ・特別教室
- ・福祉学習(バリアフリー)
- ・物事の本質を学ぶ

2. 生活環境の充実

子どもたちの豊かな成長を支援する学校

- ・トイレ
- ・庭
- ・汚れを気にせず
- ・階段、エレベーター
- ・明るく楽しい
- ・のびのびと育つ

3. 地域開放

地域の方々のふれあいの場となる開かれた学校

- ・地域活動の場
- ・地域の方々に
- ・防犯性
- ・生涯学習の場
- ・地域を学ぶ
- ・管理方法

4. 地域性の反映

地域の特性を活かした特色のある学校

- ・地場産材
- ・石樽小ならではの
- ・自然環境(鈴鹿山脈)
- ・永く愛される

20:20 アンケート01の分析

アンケート01で集めた具体的な提案からその意図を読み取り、何を大事にしたいのかを分析し、キーワード毎に分類した。今後それらのキーワードを検討することで、皆さんからの提案の本質に添えていきます。

20:55 質問・意見等

- ・品野台小学校では、教室がオープンな環境で、我々がうろうろしているにも関わらず、子どもたちは授業に集中していた。最近の子どもたちは、音楽を聴きながら勉強するといったことができるのでしょうか？
→音楽によっては、その方が集中できるだろう。
→TVゲームで目、耳、手を同時に使うように、そういうことに慣れているのでは。
- ・広い教室を望む意図は授業の変化に対応できることも大事であるが、教室に入った時に感じられる「ゆとり」も大事にしたい。
→参観日は保護者が教室からあふれる。
→廊下との間仕切りがガラスではないので閉鎖的に感じる。
→廊下との間仕切りは掲示には便利。
→「教室の閉鎖感」と「掲示場所の確保」から間仕切りの要・不要を議論するのはなく、それぞれの要素を解決する方法を見出していくことが大事。
- ・教師の役割は「教える」から「支援する」に変わってきている。
- ・義務教育では基礎学力をつけるのが大事。

21:20 閉会

次回ワークショップテーマ

1. 配置計画

これまでみんなで作って勉強し、考えてきた様々な思いを、形にしていく第1歩を踏み出します。

第5回ワークショップの概要

2002年7月5日(金) 19:30~21:05
出席者数: 23名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

「日常的に校内で地域の人と交流がはかれ、
地域を学べる環境がいいと思う。」

19:40 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)
前回のおさらい

今後の検討項目として定めたキーワード
を振り返る。

19:45 配置計画とは?

具体的な建築計画の第一歩として、まず
敷地内の「どこ」に「何」を配置するか
を考える。

19:50 グループワークで配置計画をやってみ
よう。

グループワーク01の内容

建設委員の皆さんに3つのグループに分かれ
てもらって、各グループ毎に案を考える。

配置計画のポイントを説明。

20:15~20:45 グループワーク



グループワークで、配置計画に挑戦!

いよいよ具体的な建築計画が始まりました。まず最初は「配置計画」といって、敷地の「どこ」に「何」を配置するかを検討しました。配置計画のポイントをみんなで確認した後、3つのグループに分かれて、グループワーク形式で進めました。約30分の検討の後、各グループのリーダーにそれぞれの案について発表していただきましたが、各案それぞれに特徴があり、参考になる意見もたくさん聞くことができました。初めて試みたグループワークは30分間という短い時間の中でしたが、活発でユニークな意見交換が行われ、非常に有意義であったと思います。

次回ワークショップテーマ

1. 配置計画のまとめ
2. 平面計画

20:50 各グループ案の発表

Aグループ案・北方南小タイプの校舎を東西軸に配置。

- ・グラウンド南側の庭園を残し、新校舎の南側にも緑地を設ける。
- ・校舎とグラウンドの間に並木路をつくる。

Bグループ案・現在の通学路を変えない。
・グラウンドと校舎の間に防砂壁を設ける。
・グラウンドを掘り下げ、グラウンド周囲に観覧席となる斜面をつくる。
・校舎南側に緩衝帯としての前庭を設ける。
・敷地内に果樹園をつくる。

Cグループ案・校舎は南面採光を確保しつつ、南北に長い平面形を採用。南側ほど階数少ない。
・地域利用頻度の高さを考慮し、体育館は駐車場の近くに設ける。
・プールは校舎近くに設ける。
・道路を挟んだ北側敷地は、鈴鹿山脈での遭難者救助活動時のヘリポートとして利用。

その他意見・現在敷地予定地内にある茶畑を少し残し、地域教育に活かしたい。

- ・駐車場は普段は30~50台分で良いが、運動会の時などに数回250台分程度必要とする。→2階建て駐車場?
- ・風が非常に強く(授業が出来ない程)グラウンドの砂対策を検討する必要がある。

21:05 閉会

グループワークの様子



▼ Aグループ案



▼ Bグループ案



▼ Cグループ案

Aグループ



Bグループ



Cグループ



第6回ワークショップの概要

2002年7月26日(金) 19:30~21:10
 出席者数: 23名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ
 「石樽の家をつくりましょう。」

19:38 本日の内容説明(以下スライドにより説明)
 前回のおさらい
 グループワークによる3つの案を振り返る。
 「第5回わーくしょっぷだより」参照

19:45 配置計画のまとめ(A・B案を説明)
 ・グループワークによる3案を2案に集約
 ・2つの案は校舎ゾーン以外は基本的に共通
 ・A案: 南面に大きく間口をとり、普通教室を配置
 B案: 南側採光を確保しながら普通教室をグラウンド近くに配置

配置計画についての意見交換
 ・駐車場について
 学校用地は年に数回しか利用しない駐車場のための土地ではない。児童のための土地として利用することを第一に考える。グラウンドゾーンに駐車が必要があるのであれば、北側部分にエリアを限定し、グラウンドの仕様をかえるなど検討するが、原則として児童が利用できる仕様とする。
 ・緊急時のヘリポート利用は行う。

20:15 平面計画について(A・B案を説明)
 ・配置計画図を基に検討した平面機能構成図2案を説明。
 ・次回具体的な平面図を提示。

平面計画についての意見交換
 ・プールは道路から見えないほうが良い。
 ・管理諸室の近くに駐車場を設けるべき。
 ・職員室からグラウンド・遊具広場が見えることは大事。
 ・緊急の場合の対応が出来る計画とする。
 ・石樽の中心となる場所として将来対応も含めた計画とする。



みんなの意見による配置計画 2つの案にてまとまる

前回のグループワークの成果である配置計画各案を検証し、敷地全体の利用計画としては、1つの方向性が見えました。また、校舎ゾーンに関しては2つの方向性があり、共に魅力ある案として、もう少し検討を進めることにしました。今後平面図を検討していくわけですが、まず必要な条件として、必要な部屋の決定があります。そこで皆で、どんな部屋あるいは環境が必要かについて案を出し合いました。

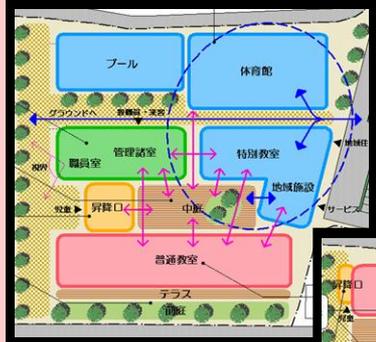
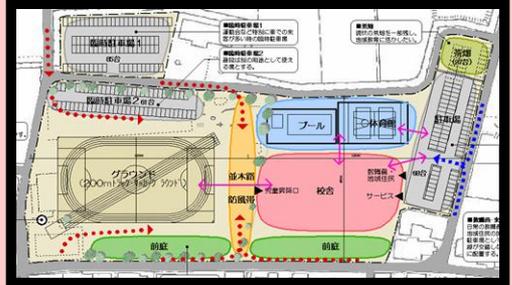
次回ワークショップテーマ

1. 石樽小に欲しい場所 のつづき
2. 平面計画

- 20:35 新石樽小に欲しい場所についての討議
- ・学童保育ができる部屋。専用でなくていい。普通教室とは区別し、切り離れた場所。
 - ・普通教室ゾーンに空き教室を用意し、障害児学習やその他多様な学習に利用。
 - ・畳の部屋。泊り、囲碁・将棋、作法室、児童とお年寄りの交流など多様な利用が可能。常時畳が敷いてなくとも畳があれば対応可。常時畳が敷いてある部屋があってもいい。
 - ・大人のサークル活動等は、文化会館等の町の施設を利用すればよく、小学校では児童との交流を目的とした施設を考えたい。
 - ・大人の活動や生涯学習をする姿を見せるだけでも、児童にとって好影響をもたらすのでは。
 - ・石樽の歴史を紹介する部屋。展示コーナー。
 - ・石樽の自然を活かしたもの。茶畑、水ヒトホト石、木・椎茸栽培、カブ虫。
 - ・危険なものを知る部屋。電気の危険性など。

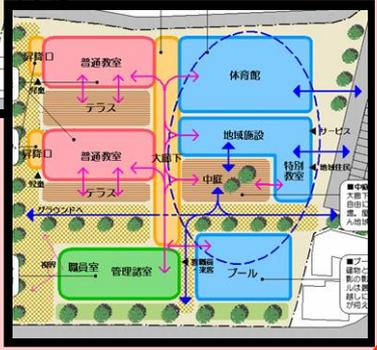
21:10 閉会

2つの計画案はこれだ!



配置計画図 (上) A案 (下) B案

平面機能構成図 (上) A案 (下) B案



第7回ワークショップの概要

2002年 8月 9日 (金) 19:30~21:20
 出席者数：20名 場所：石榑小 会議室
 19:30 委員長あいさつ

19:35 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)
 前回のおさらい
 A・B案平面機能構成図を振り返る。
 「第6回わーくしょっぷだより」参照

19:45 新石榑小に欲しい部屋 (前回のつづき)
 ・町の他の施設も利用するが、やはり石小内にも地域住民の利用施設を設けたい。他の施設とは意味合いが違う。現在は農協の2階で集会や文化活動を行っている。
 ・子どもとお年寄りが交流できる量の部屋。教育的にも有意義。子ども達は昔の遊びを教わるのが大好き(学年親睦会にて実施)。量は子どもにとってもゆっくりできる。
 ・予測できない将来要求に対応するため、予め空地を用意し、増築等に備える。校舎規模拡大、宇宙との交信。
 ・天文観測台。

20:15 平面計画について (A・B案を説明)
 A・B案共通事項
 ・敷地の断面形状を把握。
 現在の校庭と東側道路とは約4mの高低差 (小学校の1階分) があり、その高低差を利用した計画とする。



- ・中庭は床を木製デッキやタイル等で作ることにより、上足のまま出られ、短い休み時間も元気に屋外で走り回れる空間とする。
- ・職員室は校庭に面した位置とする。また近くに駐車場を設け、一部の教職員・来客の利用、緊急時の対応が可能な計画とする。
- ・駐車場入口は東側道路及び北側道路東側に限定し、児童の動線とは交差させない。

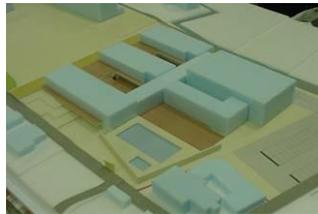


具体化した2つの案 模型も加わりより明らかに

2つの配置計画案から、それぞれをを発展させ2つの平面図ができました。共に敷地の高低差をうまく利用した2階建です。各案の簡単な模型も加わり、平面図だけでは理解しにくい高低差の利用の仕方や敷地に対する建物の大きさなどについても、随分理解が深まりました。



A案模型



B案模型

次回ワークショップテーマ

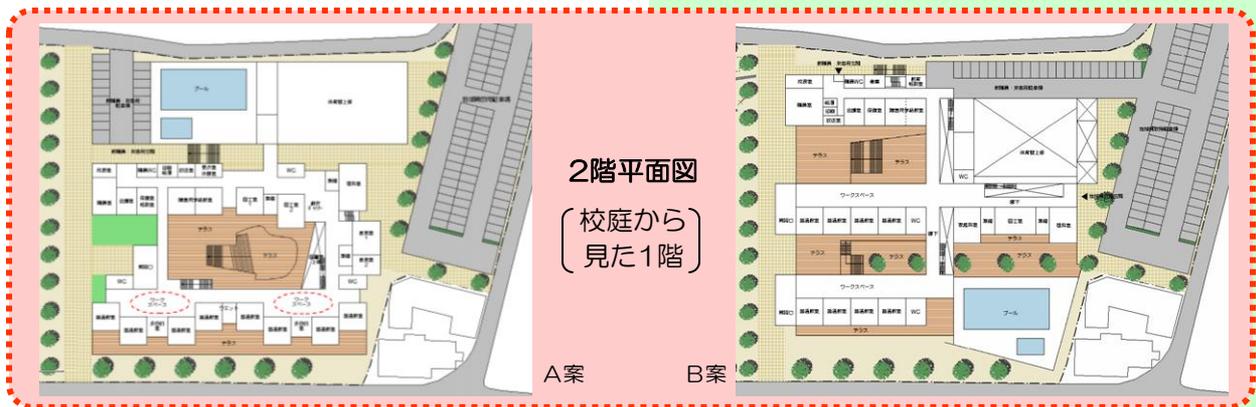
1. 平面計画のつづき

A案の説明
 ・中庭を中心に普通教室、特別教室、管理諸室を配置する。
 ・多目的室を含むワークスペースを普通教室に面して2学年毎に1つ設ける。

B案の説明
 ・校庭近くに配置した普通教室は、校庭・体育館・特別教室の中心に位置する。
 ・屋内最大空間である体育館の利用効率を高めるため、校舎の一部として取り込む。

20:45 平面計画に対する質疑・意見
 ・B案は職員室から南側普通教室までの動線が長い。普通教室棟西側に管理等と連絡する屋内廊下 (雨対策) を設置すると良い。
 ・職員室は施設全体に目が行き届く位置が良い。
 ・パソコン室など開放施設は、日常は廊下との仕切りのないオープン形式でも良いが、空調時には間仕切り必要。
 ・中庭の木製デッキとは? →見本を提示
 ・普通教室数にゆとりを持ちたい。(現在12教室) 将来の児童数増加を考慮(児童数推移は横ばい)。小人数授業など多様な授業形態に対応。文部科学省は余裕教室をなくす方向。A案の多目的室では小さすぎる。→今後也要検討
 ・ランチルームを設けたい。全児童の同時利用ができなくてもよい。専用室は不要。調理実習や地域の人でも利用できるフレキシブルなスペースとして設ける。

21:20 閉会



2階平面図
 (校庭から見た1階)

A案

B案

第8回ワークショップの概要

2002年8月29日(木) 19:35~21:30

出席者数: 20名 場所: 石樽小 会議室

19:30 委員長あいさつ

ビオトープ【環境教育、頭と心と手を使う教材】
児童と学校とPTAとが力を合わせて造ること
で意味がある。造って与えるものでない。
石樽小には庭木ばかりなので、雑木がほしい。

19:45 本日の内容説明(以下スライドにより説明)

前回のおさらい

「第7回わーくしょっぷだより」参照

19:50 平面計画の説明

A案について

- ・体育館とプールの位置を見直し、両者を校舎の一部に取り込んだ計画とすると共に、管理諸室と駐車場の関係を良くする。
- ・中庭を中心にまとまりある循環型施設配置。

B案について

- ・各機能配置が棟毎で明確。

A・B案共通事項

- ・ランチスペースを含む広いスペースに面して特別教室と体育館を配置。
- ・中庭、特別教室前スペース、図書コーナー、ランチコーナーのイメージをスケッチにて説明。

20:20 グループワークにより意見交換

- ・地域室が小さい。→200~400㎡とする。
- ・駐車場への出入りに北側道路を利用するのであれば、道路を拡幅すべき。
- ・A案の循環型にまとまりが感じられて良い。
- ・軽運動室は、運動をメインに多目的に利用できる部屋としたい。→四角い使い易い形
- ・強風による砂対策が今後の課題
- ・全体面積は文部省にて児童数により定められている。
- ・障害児教室が普通教室から孤立している。
- ・低学年の教室は、職員室の近くがいい。現石樽小の関係がいい。

21:30 閉会



次回いよいよ一つの案に ま・と・ま・る?!

2つの対照的な案を模型やスケッチを使いながら、前回から変更・発展した点も含め、より具体的な説明がありました。各案の模型を囲むように2つのグループに分かれ、共に特徴ある両案ですが、どちらのどの部分が良いのか、良くないのか、どうあることが新石樽小に相応しいのかなどを討議し、最終的な一つの案に絞り込むことを検討いたしました。

次回ワークショップテーマ

1. 平面計画のまとめ

中庭を中心とした
循環型施設配置



A案



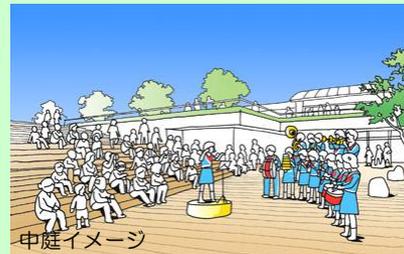
B案

3つの中庭を持ち
各機能構成が明快
な分棟型配置



中庭イメージ

中庭の大階段を
利用して演奏会
も開催できる



中庭イメージ



日常の移動
空間に面した
利用しやすい
図書室

図書室イメージ



模型を前にグループワークでの討議

第9回ワークショップの概要

2002年 9月 12日 (木) 19:30~21:20
 出席者数：22名 場所：石榑小 会議室

- 19:30 委員長あいさつ
 「学校の中で地域とふれ合えるのが大事。」
- 19:35 「コミュニティの拠点としての学校施設整備に関するパノット・イベント研究推進協議会」の委員の委嘱状交付
 ・協議会設置要項およびファイルの配布
- 19:40 地域ぐるみの「ト・ブ」づくりの事例紹介
 ・秋津コミュニティ
- 19:45 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)
 前回のおさらい
 「第8回わーくしょっぷだより」参照

19:50 最新案の説明
 前回までのA案を基に、普通教室をすべて2階に配置した案を提案

- 断面構成の説明
- 2階・・・普通教室、管理諸室
 - 1階・・・特別教室、地域施設
- 全ての普通教室を2階に配置することによるメリット (=1階では得られない屋根の工夫によるメリット) を説明
- ・教室内廊下側の自然採光
 - ・廊下との仕切りを閉じた際の自然通風
 - ・豊かな天井空間、天井しつらえの自由度

- 平面図の説明
- ・北棟にも普通教室を配置することで、障害児学級の孤立感・特別感をなくす。
 - ・ランチコーナーとして利用できる多目的入-を2階に配置し、給食の搬入も2階とする。
 - ・地域施設規模を拡大する。
 - ・体育館・プールは、工事時期が異なることも考慮し、工事中、校舎に及ぼす影響の少ない東側に配置する。
 - ・学校専用ゾーンに関しては、先生達とも協議を進めており、今後ワークショップでは、主に地域ゾーンについて協議していく。



地域にとって必要な施設をあらためて考える

いよいよ平面図も1つの方向性が定まり、具体化してきました。これも委員の皆さんからのたくさんの意見や提案があつての成果に他なりません。そこで今後更に具体的な検討を進めるために、学校専用ゾーンについては先生方に中心となって頂くこととし、ワークショップでは地域施設に重きをおいて話すことにいたしました。今回も軽運動室や調理室、屋外設備ではジョギングコースの設置などいくつか面白い提案がありましたが、もっと時間をかけて考えたいとの意見もあり、次回も引き続き意見交換をいたします。まずは規模の制約にとらわれず、地域にとって必要なもの、あったらいいと思うものなど将来を見据えた提案に期待します。

次回ワークショップテーマ

1. 地域施設を考える
2. 外観計画

20:25 意見・提案

- ・校舎北側の斜路入-を車用として利用するのは有効でない。児童のための入-として利用すべき。芝生の斜面、(積雪時)すべり台等。
 - ・敷地境界に沿って様々な仕掛け(小山、芝生、せせらぎ、アスチック、坂など)のあるジョギングコースを設置しては。最近、散歩する人が多い。
 - ・現プール・体育館跡地辺りを芝生広場としては。
 - ・家庭科室の調理・被服兼用について
 - 基本的に異なる行為で、部屋のしつらえも異なるべき。
 - 被服は、地域室の畳の部屋を利用すれば良い。
 - 最近のづくりであれば、十分兼用が可能。
 - 事例見学が必要。
 - ・調理室は地域利用用と学校用とを衛生上分けるべき。
 - ・お茶の手もみ程度ができる部屋。
 - ・(学校側が利用できる)広い多目的室がほしい。
 - ランチコーナー (多目的入-) の利用
 - 地域室の利用
 - ・軽運動室は、地域施設内に考える。
- ◎次回までに地域施設として何か必要かをみんな考えてくる。
- ◎地域施設については、まずは補助金対象面積にとらわれず、必要な施設を考える。

21:20 閉会



平面図
 (左) 2階



平面図
 (右) 1階

第10回ワークショップの概要

2002年 10月 4日 (金) 19:30~21:30

出席者数：20名 場所：石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

石本建築事務所より運動会見学の感想

- ・地域性が非常に表れていた。
- ・上級生が下級生の面倒を見ていたのが印象的。
- ・児童主体の運動会だった。

19:40 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)

前回のおさらい

「第9回わーくしょっぷだより」参照

19:40 地域施設説明

□配置計画

- ・ジョギングコース、芝生広場、ピオトプ、せせらぎ、地域花壇、リサイクルコーナー等の提案

□平面計画

- ・地域施設の拡大により体育館・プールを北に移動。

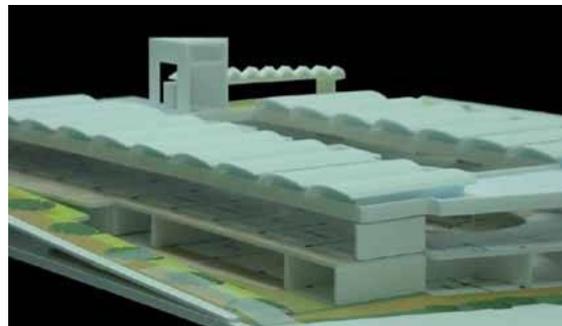
□質疑・意見

- ・軽運動室は150帖以上のスペースが欲しい。社会の高齢化に伴い、大人数での催しが行える部屋が必要となる。
- ・プールの横は人が歩かないようにすべき。
- ・駐車場200台は希望台数より少ないが、農協駐車場を借りるなどして対応する。
- ・学校という概念を取払い、地域で管理することを考えるべき。
- ・防災拠点として、備蓄倉庫を設ける。
- ・大安町にはコンサートを開催できる音響設備が充実したホールがないので、軽運動室に音響設備を設けては。さらに、純石樽産の仕上げとしてみては。
- ・大安のお茶が飲めるスペースを設けては。
- ・ギャラリーを設けては。
- ・中庭は、コンサートや卒業式など様々な利用が想定できる。

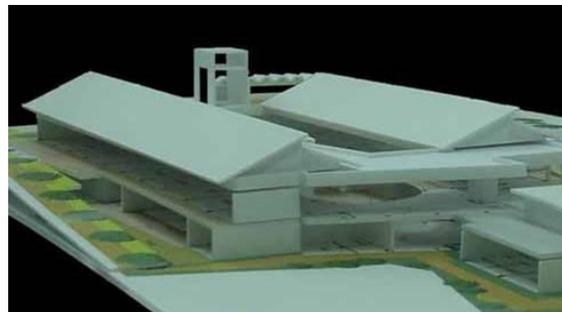


屋根デザインが示され、 ついに建物全体の姿が現れる。

地域みんなが利用できる施設の提案がいろいろ出てきました。軽運動室をはじめ、児童との交流の中心となる畳コーナーや石樽ギャラリー、子育て支援コーナーに会議室など誰もが日常的に利用できるスペースをたくさん計画しています。外部環境も敷地をいっぱい使って、ジョギングコース、ピオトプ、せせらぎの小径、芝生広場など盛りだくさんです。さらに今回は屋根形状を検討する模型が2案提示され、間取りの話が中心であった今までから1歩進んで建物デザインについても話し合いました。



A案



B案

- ・1階は学校部分を含む全てを地域の人が利用できるエリアとして管理できるようにする。
- ・各特別教室は閉じられた部屋ではなく、オープンなスペースがあるという考え方としたい。
- ・学童保育ができる場所を設けたい。
- ・昇降口が西に向いているので、風対策をする必要がある。
 - 風のシミュレーションを行い、建物に入る向き等検討する。
 - 昇降口は避難口でもあるのであまり複雑な入り方は良くない。
- ・地域諸室に関しては、なるべく専用室でなく多様な使い方ができるスペースを用意する。
- ・エアコンは後の設置が容易となるように建物を設計する。

21:00 外観計画説明・・・屋根形状について
屋根形状の工夫により、教室のワークスペース近くなど窓面から遠い部分でも自然採光が可能で、風通しの良い学習空間を実現する。

A案：周辺の家並みにスケールを合わせた小さな屋根の連続とし、形状は石樽らしさの表現として、茶畑をモチーフとする。

B案：高窓を持つ切妻屋根。最近の学校建築でも良く見受けられ、実績は豊富。

21:30 閉会

次回ワークショップテーマ

1. 公開わーくしょっぷ
2. 環境計画
3. 外観計画



配置図

第11回ワークショップの概要

2002年 10月17日 (木) 19:35~21:25

出席者数：19名 場所：石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

19:40 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)

前回のおさらい

「第10回わーくしょっぷだより」参照

19:50 屋根デザインの説明

- ・屋根デザインは、外観だけでなく、快適な室内環境を創る上でも重要。
- ・断面図により、教室・ワークスペースの室内環境計画説明。A・B案とも高窓を利用した自然採光・自然通風を実現する。

□質疑・意見

- ・A案は、曲面屋根部の雪が谷部に落ち、雪溜りとなり、漏水するのが心配。また、それにより維持管理費がかかるのでは。
- ・雪止めにより落雪防止はできる。
- ・外観上の屋根デザインは、A案がよい。新しさが欲しい。
- ・B案は平凡で、外観上の魅力にかける。

20:25 環境学習 (エコ) 計画について

□一般にエコスクールとする目的

1. 維持管理費の軽減→実質的效果は低い
2. 地球にやさしい→費用はかかるかも
3. 21世紀を生きる子どもたちが、自然の大切さを考える教材とする→小さな規模でいい

→石樽小では、上記の3.を重視し、石樽の自然と地形を活かした計画を考えたい。

- ・考えられる環境学習項目を説明
→水、風、光、緑地、地形、材料

□質疑・意見

- ・太陽光発電を利用してビオトープやせせらぎの井戸水を汲み上げる
- ・風の強さは季節により異なる。

◎次回環境学習についての提案求める。



屋根デザインには新しさを。 メンテナンスにも十分な配慮を。

前回に引き続き、屋根デザインについて話し合いました。2つの案は共に快適な室内環境を創れるという説明がありましたが、デザインは対照的で外観の印象やメンテナンス性などが焦点になりました。

また、みんなで意見を出し合って決めたキーワードのひとつ「環境学習 (エコ)」についても説明があり、次回具体的な提案を求め、意見交換をすることになりました。

さて、いよいよ次回は公開わーくしょっぷです。なるべく多くの人に参加して頂き、地域の人々でつくる、みんなのための、新しい石樽小になることを期待します。

20:55 公開わーくしょっぷについて (資料配布)

- ・日時、趣旨、準備作業分担など配布資料に沿って説明
- ・建設委員代表の登壇者の任命
地域代表：岡委員長、伊藤隆委員、林邦明委員
育友会代表：西村幸弘委員、弓矢真奈美委員

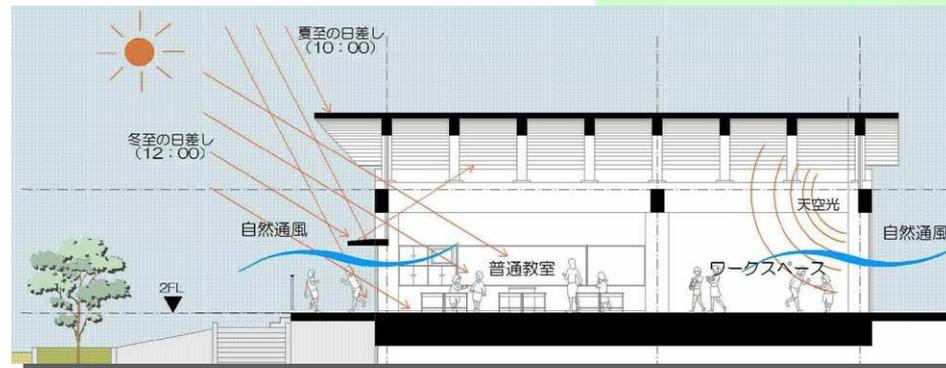
21:25 閉会

次回ワークショップテーマ

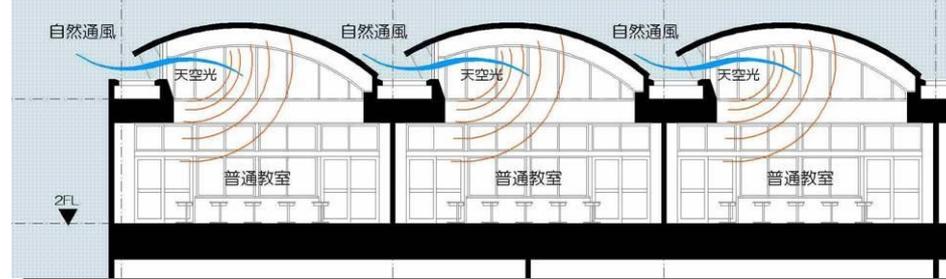
1. 公開わーくしょっぷ

次々回ワークショップテーマ

1. 公開わーくしょっぷを振り返って
2. 環境計画のつづき
3. バリアフリー計画について



普通教室とワークスペースを南北方向にカットして西側を見た断面図



普通教室を東西方向にカットして南側を見た断面図

第1回 公開ワークショップの概要

2002年 10月26日 (土) 19:15~20:55
 出席者数：約80名 場所：石榑小体育館
 ゲストコメンテーター：小松 尚 名古屋大学助教

- 19:15 開会
 協議会委員の紹介
- 19:20 建設委員の発足および経過説明 (川島 委員)
 - ・地域みんなの学校を地域みんなで作ることを目的に建設委員会を発足。
 - ・工事中も子どもたちの学習環境を変えないため、地域の協力により新しい用地を確保。
 - ・大安町の思いに合う設計者をプロポーザル方式により選定。
 - ・このワークショップを含め、地域と共に学校をつくることにに対し、先進的な取組みとして、文部科学省からの補助を得て行っている。
- 19:30 地域が参加して行う学校づくりに対して (岡 委員長)
 - ・行政や設計者に任せきりにせず、自分達の学校を自分たちでつくりたい。「みんなで作る、みんなのための、新しい石榑小学校」を合い言葉にがんばっている。
- 19:35 ワークショップの経過・現段階の計画案説明 (石本建築事務所)
 - ・他校の先進的な取組みを勉強。(情報収集・視察)
 - ・石榑小学校に相應しい目標を設定
 1. 子どもたちが生き生きと学べる学校
 2. 子どもたちの豊かな成長を支援する学校
 3. 地域のふれあいの場となる開かれた学校
 4. 地域の特性を活かした特色のある学校
 - 学校を地域に開くことは、地域の人のためだけでなく、子どもたちのためにもなる。
 - ・配置計画
 新しい敷地いっぱいに地域の人が利用できる様々な場所や機能を検討中。
 - ・断面計画
 敷地の高低差を利用することで、1・2階とも接階とし、避難上も安全。
 2階：普通教室、管理諸室
 1階：特別教室、地域施設
 - ・平面計画
 様々な利用が可能な中庭を中心とした施設配置。
 1階はすべて地域利用が可能と想定している。



「非常によく議論された計画だと感じられ、内容的にも非常に楽しみです。」

上の言葉はこの日ゲストコメンテーターとして出席して頂いた名古屋大学の小松先生から頂いた今回の計画に対するコメントです。これまで、地域の代表である建設委員を中心にみんなで一生懸命話し合ってきたことが評価された言葉であり、大変うれしく思います。また同時に「建物を使っていくことに対する参加や協力が重要」と、建物完成後の、運営も含めた地域の学校に対する関わり方についての課題も示唆されました。



公開ワークショップの様子



模型に興味深く見つめる参加者

今回は第1回目の公開ワークショップということで、今後もちろんにより良い計画を目指し努力し、また皆さんに報告できる場を設けたいと考えております。次回も奮ってご参加願います。皆さんからも広く意見や提案を求めますので、お近くの委員までご連絡ください。

- 20:00 計画案に対するコメント (小松 先生)
 - ・学校が愛着のある「居場所」であるために
 1. 建物デザインに居場所となるための仕掛けを盛り込み、みんなで検証する。
 2. 計画時から、みんなで使い方を考える。建築は、電化製品などの既製品と違い、自分達が計画に参加でき、自分達にとって使いやすいものをつくることができる。
 - ・入口を1ヶ所に限定した玄関のつくり方でなく、地域諸室は縁側的な入り方でも良いのでは。
 - ・多様な利用が想定される体育館はもっと外部とのつながりを大事にしたほうが良い。
 - 地域施設は「敷居が低い」ことがとても大事。

非常によく議論された計画だと感じられ、内容的にも非常に楽しみです。

- 20:15 各委員からの意見
 - ・現校舎設計時の思いを今回実現できるのではと期待している。(林 委員)
 - ・子どもたちが地域の人から様々なことを学び、将来はその子どもたちが地域の活力となり、地域を盛り上げてくれると考えている。そのために今後自分が窓口となり地域の意見をもっと吸い上げ話し合っていきたい。(西村 委員)
 - ・これまで地域の人々の温かい支援を感じてきた。地域の人との心のふれあいが大事。子どもたちの心を育む環境が実現できそうだと感じている。(野口 委員)
- 20:30 今後の課題 (小松 先生)
 - ・計画時だけではなく、建物完成後の運営に対しても、地域が関わっていくことが重要である。
 - ・設計過程をもっと地域の人たちに報告したほうが良い。例えば学校に模型や絵を置き、実際に見てもらおう。子どもたちにも興味を持ってもらいたい。
- 20:40 小松先生に質問
 - ・現計画でもゾウリガ工事が校舎と体育館の間を通っていますが、池田小の事件のこともあり、安全面について、どのようにお考えですか？(伊藤 委員)
 - 塀を高くするなど物理的な処置は誰も好まないし、やりたくないだろう。むしろ人気(ひとけ)を感じさせるつくりとすることが大事なのでは。
- 20:50 アンケートのお願い
- 20:55 閉会のあいさつ (日沖 委員)
 - 石榑学区の人だけでなく、大安町の誰もが利用できる学校としたい。

第13回ワークショップの概要

2002年11月21日(木) 19:35~21:20

出席者数: 21名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

運動会の時に電動車椅子の方が通路の障害物に立ち往生していた。ちょっとした配慮や工夫により解消できることがたくさんあり、それにより多くの人を使い易くなる。

19:40 本日の内容説明(以下スライドにより説明)
前回のおさらい

「第12回わーくしょっぷだより」参照

19:55 福祉学習(バリアフリー)について

- ・バリアフリーをしすぎると、健常者にとって悪影響をきたす場合がある。
- ・健常者が障害者を配慮する心を育む意味でもやりすぎないほうがいい。
- ・敢えてやりすぎないようにしても、配慮が足りないと言われるだろう。
- ・バリアフリー環境に慣れてしまうと、外部環境で苦勞する。
- ・学校は日常生活の訓練の場となるべき。
- ・健常者と障害者が共に学び、共に育む環境を創ることが大事。



すべての検討項目に対する意見交換を終え、 次回いよいよまとめ

5月から始まったワークショップもはや13回を数え、いよいよ設計のまとめをする段階を迎えます。

最初はいろんな学校の事例を勉強することから始め、視察を行い、第4回のワークショップでは石樽小に相應しい学校を創るためのキーワード(検討項目)を設定しました。その後、各キーワードに対し意見を出し合いながら、計画図に反映させて進めてきました。そして今回、最後のキーワード(福祉、トイレ)の話し合いを行い、設計に関しては後はいよいよまとめるだけとなりました。

次回ワークショップテーマ

1. 計画案のまとめ

- ・段差を無くすることも重要だが、幅員を充分にとることが大事。
- ・まったくの段差なしとするのではなく、畳コーナーの上り框など段差に意味のあるものは活かしていく。

実際に障害者や介護に携わるひとの話を聞いて検討する。

20:20 トイレ計画について

■快適なトイレ3つのポイント

1. 明るいトイレ

→ 雰囲気づくり

2. きれいなトイレ

→ 掃除のしやすさ

3. 使いたい時に使えるトイレ

→ 十分な器具数の設置

→ 適正な位置に分散配置

■事例紹介(挿絵参照)

■意見・提案

- ・掃除のしやすさの前に汚しにくい器具の選定をすることが重要。
- ・大人が考えているよりも、子どもたちはきれいに使うという意識を持っている。
- ・授業の一環として掃除をプロから学んでは。
- ・洋式は、便を確認しづらいのでは。
- ・床は水洗いができ、水はけのよいものが多い。
- ・カラフルすぎる内装は気がおかしくなりそう。→ 一時的な利用なので、カラフルもいい。
- ・低学年は手前の便器から使う傾向があるので、入口に近い位置に便器を設けるとよい。
- ・水洗いをする床は不衛生なので、拭取り清掃を基本とし、汚物がつきやすい部分のみ水洗いができるようにする。
- ・外に漏れない小さな音量でBGMを流しては。

21:10 今後のスケジュール

12月・1月: 設計のまとめ

2月: 第2回公開ワークショップ

3月: パノットビル報告書のまとめ

21:20 閉会



事例1) カラフルな色づかいにより明るいトイレを演出

ユニークな トイレ事例

事例2) 曲面に設置された小便器は楽しさを演出



事例3) 便所の中に島状に配置された手洗いカウンター

第14回ワークショップの概要

2002年 12月 13日(金) 19:35~21:20

出席者数: 18名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

授業参観日に展示してあった模型を見て、保護者も子どもたちも理解を深めた。

19:40 本日の内容説明(以下スライドにより説明)
前回のおさらい

「第13回わーくしょっぷだより」参照

19:50 建設移行計画について

H15.10~H16.08: 新校舎建設

H16.09~H16.12: 新校舎、体育館建設

H17.01~H17.03: 体育館建設

H17.04~H17.09: 旧校舎、体育館解体

H17.10~H18.03: 運動場、プール工事

H18.07~H18.09: 旧プール解体

・移行中も安全に子どもたちが通学でき、学校生活を送れることが大事。

・旧校舎解体中、北から通う児童は校庭の北側から入れるようにしたほうが良いのでは? →工事車両が南側道路を通行することになり、通学時の危険性が高い。

20:15 教室廻りの計画について

・先生方と協議を重ね検討している。
・模型により普通教室の空間の形状を確認。
天井の高さ、自然採光・自然通風、ワークスペースを含めた教室の広さ など

20:30 意見交換

・駐車場から玄関まで雨に濡れずにすむような屋根が欲しい。
・塔はもう少し高いほうが良い。苦労して上がるくらいのほうが良い。
・いつまでもふるさとの記憶として残る学校としたい。
・仕上材は教育委員会と石本建築事務所が協議しながら決める。



今後のワークショップは、 管理・運営に関する話し合いが焦点

計画案もほぼ全体の方向性が決まり、これからは詳細設計に入ります。今まで話し合ってきたことを反映させた、石樽にしかない、石樽のための、石樽に相応しい小学校にしたいと思います。そこで今後重要となるのは、建物完成後の利用方法です。せっかく新しい試みにより、地域の人も利用できる小学校をつくっても、うまく利用・運営されなければ意味がありません。地域の人々が利用するのだから、地域で管理していかなければなりません。学校や行政には頼るのではなく、協力し合って地域主体で進めていきましょう。

次回ワークショップテーマ

1. 実施設計中間報告
2. 管理・運営について

- ・せっかく地域交流施設を含む立派な学校ができるので、有効に利用されるよう、石樽地区全体として今から動き始めるべき。
- ・完成後の使い方について各地域で話し合いを始めて欲しい。
- ・わーくしょっぷの中で、建物の利用の仕方や運営の仕方について話していこう。
- ・地域で学校を利用すればするほど、子どもたちとの接点生まれ、お互いのためとなる。

今後のワークショップでは、完成後の
運営について話し合っていく。

21:20 閉会



普通教室
1つ分の
模型写真



南側外観



内観
(屋根を外して撮影)



中庭イメージ

第15回ワークショップの概要

2003年1月24日(金) 19:35~21:30
出席者数: 18名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

育友会では『心豊かな子どもを育てるために親子で手を取合う』と言っているが、そこに『地域』も加え、建設委員が中心となって、子どもたちを育てたい。

19:40 本日の内容説明(以下スライドにより説明)
前回のおさらい

「第14回わーくしょっぴだより」参照

19:45 設計報告

基本設計書をまとめました。基本設計書とは、工事を行うための図面とは異なり、設計の考え方や材料の選定根拠などをまとめたものです。

■仕上計画

材料選定の基本的な考え方

①自然材料を利用する。

- ・あたたかみのある空間としたい。
- ・子どもたちに材料の変化する様子もみてほしい。
- ・メンテナンスをすれば長持ちする。
- ・大切に使う心を育てたい。

②子どもの健康を害する材料を利用しない。

- ・ホルムアルデヒドを発散しない材料

③リサイクル材を利用する。

- ・教材としても利用してほしい。

外壁: タイル(リサイクル材)を基本

→汚れ、耐久性に対する配慮

床: タイル(リサイクル材)

木デッキ(硬く耐久性有り)

→あたたかみがある

内壁: 木を基本(手の届くところ)

→あたたかみ、汚れに配慮

建具: (中庭に面する共用部分のみ) 木製

■構造計画

鉄筋コンクリート造(曲面屋根は鉄骨造)

→強度的に強く、耐久性があり、火災時にも燃え広がらない。



新校舎設計、いよいよ大詰め!

新校舎の設計は今年度末の完成に向け詳細設計を行っています。その詳細設計に至るまでの建物に関する基本的な考え方が記された基本設計書がまとめられ、使用する材料や構造の考え方、そして冷暖房に関する説明などがありました。どれも子どもたちと環境に配慮し、建物を長持ちさせることを基本として計画されています。

また今回から新校舎完成後の地域交流施設の利用に関する管理・運営の話し合いが始まりました。まずは新校舎設計時と同様、先進校に倣おうと、岡山県にある吉備高原小学校の事例について勉強しました。今後はそれを1つの参考として、石樽にあった方法とルールを検討していきます。

次回ワークショップテーマ

1. 公開ワークショップについて
2. パノトモデル研究報告書作成について
3. 管理・運営について

吉備高原小学校の地域開放に関する資料

資料01

地域開放

設計段階から積極的な地域開放を前提に取り組んでおり、開放系施設を校舎の北側に連続的に配置したことで管理しやすく、また利用者にとっても使いやすい校舎となっている。

管理方法

<開放施設>
 体育・特別教室ゾーン
 屋内運動場・プール・クラブハウス・図書室・コンピュータ教室・音楽室
 食堂ゾーン
 食堂・調理コーナー
 <施設施設> (休日)
 普通教室ゾーン・管理ゾーン・給食調理室ゾーン

また、年2回地域住民参加の学校一斉清掃を実施し、施設の美化に努めている。

使用許可

施設管理全般については、教育委員会が実施しているが、使用許可の手続き等については、学校長の判断で許可している

利用者

使用許可申請書

開放用玄関の扉

学校

■空調計画

ワークスペースも含め全館電気式暖房(冷房も可)
 →オープン形式で考えたワークスペースなども寒くて利用されなければ意味がない。
 →石油ストーブは、危険性が高く、先生の運搬・給油の労力も大変。
 →電気式では暖房のみの方式よりも冷暖房方式の方が経済的。冷房の使用は運用による。

20:15 質問・意見

- ・石樽の石を仕上材に使用したい。
- ・リサイクル材ってどんなもの?
 →窯業廃土、ガラス廃材、下水汚泥焼却灰などを活用したタイル。ペットボトルを再利用したOAフロアー。
- ・トイレの床はカビや匂いなど衛生面を考慮し、タイル張りとしなない。

20:40 運営・管理について

- ・事例紹介: 吉備高原小学校(1997年竣工)
- ・地域開放運営委員会を設置
- ・ボランティアによる図書貸出
- ・年に2回地域のみんなで清掃
- ・次回のワークショップで今後検討していくべき項目に関する意見をもとめる。

21:20 第2回公開ワークショップについて

日時: 2003年2月17日(日) 13:00~
場所: 石樽小学校 体育館

21:30 閉会

資料02

地域開放

運営方法

図書室: 毎週水曜日と第1・3土曜日の午前10:00~午後3:00まで一般開放運営については、地域住民約50人をボランティアスタッフとして登録。毎回2人で貸出し作業を行っている。また、冊数が少ないので、県立図書館の配本事業活用し、年間3回900冊づつ本の入れ替えも行ってもらっている。

プール: 夏休み期間中一般開放している。平日午後1:00~午後7:00、土日祝日午後1:00~午後5:00。プール出入口の開閉、塩素濃度チェック等を管理人にお願いしている。

地域開放運営委員会の設置

地域開放運営委員会

利用者からの声を、今後の地域開放を進める上での参考に!
 (構成)
 ・箕陽町、加茂川町各区域長
 ・幼小PTA役員、学校長、教頭、園長
 ・教育委員会事務局

利用者

地域開放についての
 ・問題点、改善点
 ・要望

第16回ワークショップの概要

2003年 2月 17日 (月) 19:30~21:30
 出席者数：19名 場所：石樽小 家庭科室

19:30 委員長あいさつ

鈴鹿の小学校では、老人会を招いて昔の遊びで盛り上がった。石樽もいろいろな団体があるので、子どもたちと様々な交流を行うべき。

19:35 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)
 前回のおさらい

「第15回わーくしょっぷだより」参照

19:50 公開ワークショップについて

公開ワークショップ計画書を説明。

意見・質問

- ・周知は、PTAで積極的に行っている。自治会や老人会にも周知していく。
- ・公開WSでの質疑は最後に集中するので、意見要望書を用意するとよい。
- ・意見を言いやすい雰囲気を作ることが大事。

20:15 パイロットモデル報告書作成について

- ・平成13年度の事例を紹介。
- 13年度版の事例と比較してみて、メンバー構成・会合回数どちらにおいても、どこにも負けない地域密着型で内容の濃いパイロットモデル研究が行えている。

・石樽小の報告書目次を紹介。

意見・質問

われわれは、建物の計画にとどまらず、管理・運営についても話し合っていることを報告書に明記したい。

20:25 管理・運営計画について

- ・管理運営に関する検討項目案を説明 (挿絵参照)
- ・管理と運営を分けて考える。
 管理：ルールをつくる。
 運営：企画・実行する。



管理・運営についての話し合い始まる 最初から活発な意見交換！

いよいよ具体的に新石樽小学校の管理・運営についての話が始まりました。小学校で「管理・運営」なんていうと、戸惑うかもしれませんが、地域みんなが利用できる今までと全く異なる新しい小学校が出来るのだから、どんどん利用しなければ意味がありません。誰もが気持ちよく使え、幅広い利用ができる。そのために今からみんなで新石小に必要で相應しいルールをつくらう。そして様々な企画を行い、実行していこうということなのです。

今回のワークショップでは、「管理」と「運営」を分けて考え、具体例をあげて話し合いを始めたわけですが、これまでも料理教室をはじめとする様々な地域活動が行われていることがわかりました。そうした活動はもちろん、これから始めたい文化教室、軽運動、音楽会など、みんなの意見・運営により、いままで出来なかったことが出来るようになります。自分たちの施設です。たくさんの意見により楽しみを膨らませましょう。

意見・質問

- ・無理に企画したりしなくとも、施設を利用したい人は申し込みに来るのでは？
- それが理想。軌道に乗るまではある程度運営側でリードする必要があるのでは。
- 今までも自然発生的に料理教室等が企画されていたので、そうした地域活動の土壌が出来ている。
- 現在も自宅を利用して、料理教室をしている人たちがいる。
- ・児童センターが遠いので、行政としては子育て支援や学童保育等の事業を考えている。

20:20 トイレアンケート結果一部紹介

- ・石小の子どもたちの新校舎建設への参加の第1歩として、トイレに関するアンケートを実施。子どもたちの意見を新校舎のトイレ計画に反映させていく。
- ・低学年の児童は洋式便器を好み、高学年になると衛生面を意識し、和式を好む傾向。
- ・学校でうんこをする子は少ない。
- ・明るいトイレにしてほしい。
- ・ジャスコのトイレみたいにしてほしい。

21:30 閉会

次回ワークショップテーマ

1. 公開ワークショップのまとめ
2. パイロットモデル研究報告書作成について
3. 管理・運営について

管理・運営計画

管理・運営について考えないといけないことって何があるの？

管理	運営
◇ 開放施設の出入口の開け閉め = 鍵の管理	◇ ボランティアの募集
◇ 図書の出し出し	◇ 地域文庫収集
◇ 地域施設利用手続き方法	◇ サークル活動(料理教室・囲碁など)
◇ 利用時のマナー(喫煙・禁煙など)	◇ 映画会・音楽会・講演会の開催
◇ 開放施設の掃除	◇ 人材の登録
◇	◇ 作品展の開催
◇	◇ 現校舎解体式・新校舎完成式
◇	◇

ルールをつくる

企画・実行する

トイレアンケート結果 (一部)

学校での希望の便器は？

洋式
 和式
 どちらでもよい

低学年女子

中学年女子

高学年女子

第2回 公開ワークショップの概要

2003年 2月23日 (白) 13:10~15:15
 出席者数：約70名 場所：石榑小体育館
 ゲストスピーカー：小松 尚 名古屋大学助教

13:10 開会
 委員長あいさつ
 ・石榑には昔から変わらぬ自然・伝統・産業がある。新石小がそれらを伝える場所となるといい。
 ・設計者や行政だけに頼らない地域のみんなで作る学校とする。
 ・自分たちでつくる、自分たちの施設として、誰に気兼ねすることなく意見を言ってほしい。
 建設委員の紹介

13:20 計画案の説明 (石本建築事務所)

14:05 計画案に対する質疑

1) この場所は大変風が強いが、運動場の砂対策はどうなっているのか？
 → 1. 飛びにくい土を選択する。
 2. 飛んでも大きく問題とならない対策をする。
 ・運動場の地盤面を校舎部分より低くし段差部分に設ける低木により受け止める。
 ・昇降口を運動場に面させない。

2) 展望台を設けた意図は？
 → 1. 建物は低くしたかったが、この石榑の季節感ある景色を眺められる場所を設けたかった。
 2. 町のシンボルとしたかった。

3) 建物の構造はどうなっているのか？
 → 災害時にも機能することと長持ちさせることを考慮し、鉄筋コンクリート造としている。
 内装には木材を多く使用している。

4) 南道路に近いが音対策は？
 → 1. 交通量がさほど多くないので、神経質になり過ぎなくていいと考えている。
 2. 植栽を施している。

5) 屋根の材質は？
 → アルミめっきした金属屋根
 ちなみに形状は、石榑の茶畑にならっている。

6) 地域利用というが、どうやって運営していくの？
 → (前回の公開ワークショップで行ったアンケート結果を紹介) まず地域の方が利用したいという要望があることを確認した。管理・運営については話し合いを始めたところ。皆さんにも考えてほしい。例えば、利用希望の多い図書室も何もしなければ子供用の本しか置かれぬ。



学校への地域参加が子ども達を守り、育む！

今回の公開ワークショップは1回目とは異なり、建設委員もステージから降り、全員が中央の建物模型を取り囲む形で進められました。また、途中で周囲の壁にかけられた完成予想イメージ図や中央の模型を自由に眺めたり、まわりの委員に質問をしたりする時間も設けられ、地域の皆さんも、より理解が深められたようでした。また、地域の方からの防犯面に関する質疑に対し、地域みんなの目で子ども達を守ることが最善の策であるという小松先生の説明は、地域の方々の理解を得たと同時に、学校と地域の距離をより一層近くしたのではないかと思います。



中央に置かれた模型を囲んで、設計者からの説明を受ける地域の方々



(上) 完成予想イメージ図 南西よりみる



(左) 完成予想イメージ図 上空よりみる

- 7) 昇降口の風対策は？
 → 出入口を北向きにし、さらに履替えエリアと廊下との間に建具を設け、昇降口全体を大きな風除室としている。
- 8) 防犯面はどのように考えているのか？池田小学校のような事件が起こらないとも限らない。
 → いつも見張られているかのような監視カメラではなく、あたたかい目で見守りたい。

小松先生からのアドバイス
 あの事件は教育界だけでなく建築界にもショッキングだった。残念ながら、そうした事件を防ぐ建築的特効薬は未だない。高さ5mの壁で四周を囲えば進入は防げるが、誰もそれは望まない。みんなの目で守ることが現在言われている最善策。道路から近いという意見があったが、言い換えれば周囲の目がたくさんあるということ。花壇が手入れされていれば、踏み入れないだろう。ニューヨークで落書きを徹底的に消せば、なくなったという事例もある。

- 質疑者：まったく小松先生のおっしゃる通りだと思う。公共トイレの掃除を行っているが、徹底的にやることで落書きがなくなった。
- 9) 現在桜の木が周囲にあるが残るのか？皆それぞれ思い入れがあると思う。
 → 植物に限らず、石や校門など極力残すことを考えている。
 - 10) 管理運営の検討を進めていることを紹介してほしい。
 → スライドにて紹介 (右表)

管理・運営計画	
管理	運営
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 開放施設の入出口の閉鎖機能 ◇ 施設の管理 ◇ 設備の買出し ◇ 利用時のマナー(喫煙・禁煙など) ◇ 開放施設の掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ボランティアの募集 ◇ 地域文庫設置 ◇ 青少年活動(習字教室・音楽など) ◇ 協議会・委員会・連絡会の開催 ◇ 人材の確保 ◇ 作業員の確保 ◇ 現行会館解体・新校舎完成式
[ルールをつくる]	[企画・実行する]

野口校長先生より一言
 地域密着型の教育をめざしている。これまで地域の皆さんのあたたかい支援を感じてきた。今後よろしくお願ひしたい。

小松先生より一言
 形式だけでなく、実際にこんなに地域と学校が一体になった学校づくりの例は少ないだろう。学校と一体となっているからこそできる企画・運営をお願いしたい。

15:10 閉会のあいさつ (川島委員)
 地域の人の声を反映するのがワークショップのねらい。いなべ市の中で大卒の担う教育的役割があるが、石榑小学校は、そのシンボルとなる。

15:15 アンケートのお願い

第17回ワークショップの概要

2003年 3月 7日 (金) 19:35~21:55
出席者数：16名 場所：石樽小 会議室

19:35 委員長あいさつ

第2回の公開ワークショップでは、多くの人が完成後の管理について興味があったようだ。何とか今のこの建設委員のメンバーで、管理方法を決め、新小学校のスタートを導きたい。

19:40 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)
前回のおさらい

「第16回わーくしょっぴだより」参照

19:45 第2回公開ワークショップを振り返って
提出されたアンケートより参加者の感想
や意見を紹介

- ・「子供と一緒に学んだり、遊んだりしたい。」
- ・「サークル活動をしたい。」
- ・「老人会等で地区民の交流の場として利用したい。」
- ・「子どもとの交流はもちろん地域の交流の場としての利用を考える意見も多い。」
- ・「防犯対策が心配ですが、いろいろな人の目があることが防犯につながるとお聞きして、納得しました。」
- ・「外構部の芝、雑草対策など配慮する必要がある。」
- ・「防犯・管理に関する関心が高いことが伺える。」

委員の意見・質問

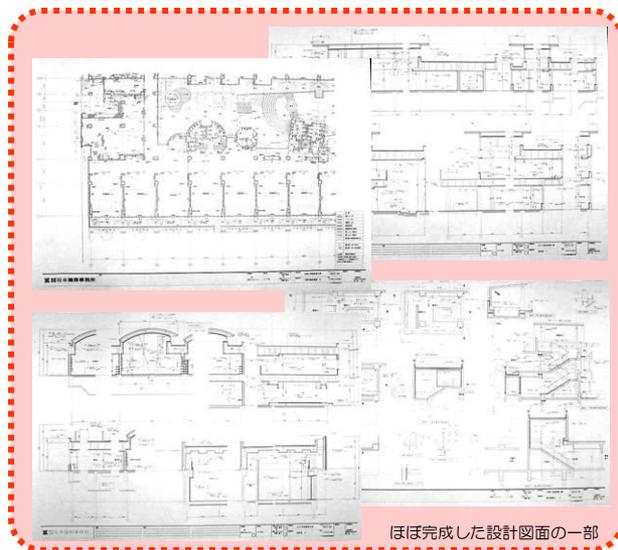
- ・高い壁を設けたり、カメラを設置して管理するのは、農薬をまいて管理しやすい田んぼを作るようなもの。お米同様、目をかけ、手をかけ子どもたちの安全な環境を創るのが良いのでは。
- ・子どもを守るといってはたくさん目で見れば何とかなる。人が近寄りやすい環境を創るほうが大事。
- ・建物内の人の管理に対しては、具体的に誰かを配置したほうが良いと思う。
- ・学校を防災拠点として非常時の給水設備を設けるべきでは？
- プールの水を浄化する設備を考えている。備蓄倉庫も体育館建設と同時に検討する。
- ・防火設備など災害時の建築的な対策は？
- 法に定められた基準に従い、防火扉などを設置し、安全に避難できる施設としている。



今年度のワークショップ 残すところあと1回!

第2回の公開ワークショップでは、前回に比べ計画案もより具体的になり、参加者の理解はより深まったようです。さて、今年度のワークショップも次回がいよいよ最後です。今回のワークショップの中では、A1用紙で約180枚にもわたる、壁の裏側まで詳細に描かれた設計図面の紹介がありましたが、同時に「コミュニティの拠点としての学校整備に関するパイロット・モデル研究」としてこの1年間話し合ってきた内容をまとめた報告書も作成しています。

でも設計図や報告書が出来ても建物がまだ完成した訳ではありません。これは学校づくりの1つの節目であり、新校舎完成までに準備することはまだまだたくさんあります。ですからワークショップはこれからも続きます。今後も現在のメンバーが中心となって、「みんなで作る、みんなのための、新しい石樽小学校」のために全力を注ぎます。



ほぼ完成した設計図面の一部

- ・当日体育館は非常に寒かった。新しい学校は間仕切りも少なく広くなるが、寒さは大丈夫か？
- 単に広ければ寒くなる訳ではなく、しっかりと断熱を施し、空間に相応しい空調計画をすれば大丈夫である。
- ・今回の公開ワークショップは最初は調子良くことが運んだと思う。ただ後半少し時間切れで、こちらの意図が充分に通じていなかったように思う。

20:40 来期の建設委員会について

年度が変わると立場が変わる人もいるが、現在の委員が核となり最後までやっていきたい。

21:00 パイロット・モデル報告書の概要について
前回のワークショップで提案のあった「管理・運営方針の策定」を項目に加えた事を説明

- 大安町及び石樽の地域特性についての意見
- ・古墳時代からの歴史、滋賀県との交流、蓮如聖人、椿大社などの歴史・地理・文化的背景を持つ。
- ・石樽らしさを大切にしたい教育を心がけている。これまで地域の協力をすごく感じてきた。老人会との交流も行っている。(校長)
- ・地域の者としても、子どもたちの真剣な取り組みとその成果を感じる。これからも力を貸したい。

今まで行われてきた学校づくりに関わる 地域性を大切に、報告書をまとめる。

21:25 実施設計報告

A1用紙で約180枚にわたる設計図を紹介。

21:45 先生から設計に対する要望

言葉の教室：ペアガラスなど防音設備、洗面台、保護者の待合いからは子どもが見えるミラーガラスの設置。将来2学級となった時の対応策。

昇降口：現状2ヶ所に対し、1ヶ所の計画となっている。混雑が予想されるので、現状分は確保したい。

家庭科室：調理室と被服室は兼用としたい。準備室は不要。

→教育委員会と協議し、次回報告する。

21:55 閉会
次回ワークショップテーマ

1. 14年度ワークショップのまとめ
2. 次年度検討課題の抽出

第18回ワークショップの概要

2003年 3月 24日 (金) 19:35~21:40
出席者数：22名 場所：石樽小 会議室

19:35 委員長あいさつ
これまでがんばってきた建設委員の取組みや姿勢を地域の方が評価して下さっている。でも造るだけではダメで、今後使われるよう検討していかなければいけない。

19:40 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)
前回のおさらい
「第17回わーくしょっぴだより」参照
前回の先生からの要望に対する回答
・ことばの教室について
マジックミラーについては、むしろ透明ガラスとしたほうがいい。その他は要望通り対応。
・昇降口について
全校児童が同じ所を通過し、顔を合わせることを大事にして1箇所とする。
・家庭科室 (調理・被服兼用) について
被服の授業を年に数回で、専用室とするのはもったいない。地域と調整し、和室を利用する。

20:05 パイロットモデル研究報告書配布・説明
最終計画図に忠実作られた模型を見ながら説明

20:40 この1年を振り返った各委員の感想
・いいメンバーと一緒にやれてよかった。
・設計事務所の熱心さに感謝している。
・自分の意見が計画に反映されてうれしい。
・自分の意見が計画に反映されず残念。果樹園、UFOが降りれる開閉式のドーム屋根体育館等
・完成後は学校とは切り離れた運営母体を作るべき。
・ここで陶芸をやりたい。
・運動後のシャワー設備がほしい。
→体育館・プール設計にて対応予定
・学校づくりに参加できるなんて一生に1度あるかどうか。参加させてもらったことに感謝。
・小松先生の感想
2度の公開ワークショップの時も感じていたが、今日皆さんの様子を見せられて、これまで地域と町がよい関係であることを改めて感じた。こうした関係のワークショップは他の町で同様にできるわけではない。今後也非常に楽しみである。



建設委員の皆様、ひとまず(?)ご苦労様でした

今年度最後ということで、これでひとまずワークショップも幕を閉じます。建設委員の皆様、本当にご苦労様でした。

今回は、2度の公開ワークショップでもコメンテーターとして参加して頂いた名古屋大学の小松助教もぜひ参加したいとの要請があり、スペシャルゲストを加えた、節目に相応しいワークショップとしてスタートしました。

今回の主題は完成したばかりの「コミュニティの拠点としての学校整備に関するパイロット・モデル研究」の報告書の配布です。各自報告書を手にし、これまでの苦労を想いめぐらせながら、1年を振り返った感想を聞かせてもらいました。最初は、「一体何をやるのだろうか?」「自分は役に立つのかな?」など期待よりも不安の方が大きかった委員の方も少なくなかったようですが、今では、「委員をやってよかった。」「いい学校計画ができた。」と自分達の成果に満足している方が多いようでした。まさに、このことこそが、このワークショップの何よりの成果ではないでしょうか。

来年度も引続き、完成後の管理・運営について、そして体育館及びプールの設計と話し合うことはたくさんあります。来年度からは現在の委員の皆さんを中心に新しいメンバーも加えた新体制でワークショップを進めてまいります。建物完成まで、そして完成後にも繋がるようにこれからも地域一丸となった学校づくりに力を注ぎたいと思います。



各委員に配布された研究報告書

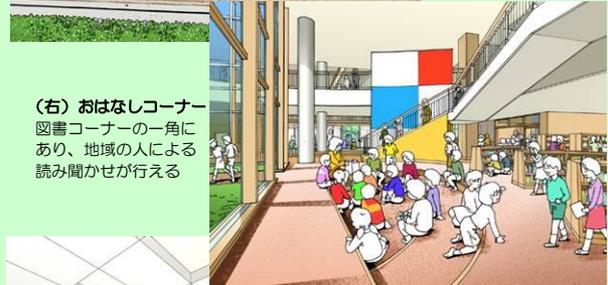
研究報告書に載せられた写真や絵の抜粋



(上) 模型写真
南西部より撮影



(左) 屋上テラス
竜ヶ岳を望みながら、青空の下での授業が行える



(右) おはなしコーナー
図書コーナーの一角にあり、地域の人による読み聞かせが行える



(上) 多目的ホール
軽運動や地域の催し物に利用できる他、音響・映像設備も備え、講演会や音楽会にも利用できる



(右) 模型写真
グラウンド上部より撮影